

## 地域発展における外部人材の果たす役割に関する考察

商学部3年 坂和貴之

指導教員：長田進

### 要旨

少子高齢化による産業の衰退、福祉需要の増大、グローバル化・情報化社会の進展による地域の空洞化など、社会情勢の変化に伴い地域が直面する課題も多様になっている。この変化に伴い、私的活動であったものが「公共的サービス」に変わることによって、「公共」の守備範囲が拡大している。

しかしながら、人口減少に伴う財源の縮小や職員数の減少など、行政のスリム化を求められる既存の行政組織では、課題に対処するには限界がある。新たな課題に対処するには、行政と市民のネットワーク型組織による解決、発展の図式が求められる。ここにおいて、市民協働という発展様式が注目されるが、これまで行政主導による「市民参加」の方策を模索してきた地域において、「市民協働」を促す仕組み、また文化は確立されていない。

本論文は、これまでの日本における「市民と行政との」協働の展開に関する議論をまとめ、その課題を指摘する。その上で、新たなアクターとなる外部人材が協働を促す媒体として有効に機能することを示す。また研究では、島根県津和野町で実施されている外部人材誘致のケースを取り上げている。島根県は全国で最も高齢化、過疎化が進んでおり、地域コミュニティの活力低下に真っ先に直面している地域である。この津和野町の取り組みを検証する意義は大きい。

研究では、組織経営学やアクター分析を用いて考察が行われている。地域活動の発展にも、ライフサイクルが存在しており、大別すると起動段階、発展段階、持続的発展段階の三つに分けられる。中でも起動段階における組織づくり、事業コンセプトづくりが非常に大切である。時間をかけて行われるべきこの段階が、その役割を担える人材がいなかったためしっかりと行われていない。地域協働が抱える問題の根源はここにあり、それゆえ市民組織の形成を促し、それを公共領域へと接続するという新たなアクターの機能が発揮されることが重要である。

具体的な外部人材の導入による主な効果として、触媒効果と起動効果が挙げられる。触媒効果とは、多様な地域のアクターを結びつけ、それぞれに内在している知識、動機、価値観、思想を共有化し、活かしていくための媒介者としての役割である。起動効果とは、活動の担い手として小さな成功の積み重ねを創り出すことで、活動初期の推進力を生み出す役割である。

社会情勢は今後さらに地域にとって不利な条件を突きつけるだろう。だからこそ、地域における外部人材の役割はさらに大きくなる。外部人材をスムーズに取り入れるためにも、地域における、それぞれのアクターが果たす役割が明確になることが期待される。各々の存在意義が確認され、協働の展開がより促進される社会が理想である。